

△企業事例「エーザイの統合報告書 5回目で辿り着いた現在地」

エーザイ株式会社 IR 部

エーザイの統合報告書には2つの特徴がある。1つ目は、手作りで作成しているということである。ベンダー会社の利用は、デザインの作成とアイデアの提案に留めている。様々な関係部署との調整を行いながら、基本ストーリーの起案や、文章の作成は全て社内で完結させている。特に事務局の中心メンバーは、ミーティングへの参加、原稿の調整等ほぼ全ての調整に関与しながら、統合報告書の作成を行っている。2つ目は、PDCA サイクルによる改善を行っていることである。エーザイでは統合報告書を作成して終わりということではなく、2016年度からは統合報告書およびESGについての意見交換会を実施し、質疑応答やアンケートを通じて効率的に幅広く社外の意見を集め、社外のご意見というエビデンスに基づいて、社内を説得し、統合報告書の改善につなげる取り組みを行っている。

エーザイの統合報告書の中で社外より高評価を得ている項目としては、「企業理念」、長期投資家へフォーカスした「マテリアリティ」、中長期的なROEマネジメントやCFOの対談をはじめとする「財務戦略」、「医薬品アクセス向上への取り組み」が挙げられる。一方で、「CEOメッセージ」については、CEOの想いが上手く伝わっていないのではないかという社外のご意見があったため、大幅な内容の改善を行った。また、戦略マップを用いることで「価値創造のプロセスとフロー」をわかりやすく可視化した。加えて、良いところばかりでなく、ネガティブな情報も今後の取組とセットで開示する等の改善を行った。

エーザイの統合報告書の今後の改善の方針として、ネガティブ情報の開示の継続や人的資本のさらなる開示の充実、わかりやすさの追求、社内の浸透への取り組みが必要と考えている。